

千葉県八千代市

池の台遺跡 g 地点発掘調査報告書

2010

八千代市教育委員会

凡　　例

1. 本書は、千葉県八千代市壹田字池ノ台2238-6ほかに所在する、池の台遺跡g地点の発掘調査報告書である。
2. 調査は、八千代教育委員会が実施した。
3. 調査及び整理は以下のように実施した。

調査期間 2009(平成21)年7月16日～2009(平成21)年8月6日(本調査)
調査面積 20m² 調査原因 宅地造成 (担当 宮澤久史)
4. 整理作業及び報告書作成作業は、2010年1月4日～3月15日までの期間行った。
5. 本書の編集・執筆は、第1章第1節を宮澤久史が、その他を伊藤弘一が行い、宮澤が総括した。
6. 実測図・写真等の資料は八千代市教育委員会で保管している。
7. 第1図に使用した地形図は、国土地理院発行の25,000分の1地形図「習志野」・「佐倉」をもとに作成にした。
8. 第2図に使用した地形図は、八千代市発行の2,500分の1八千代都市計画基本図を使用した。
9. 各実測図の縮尺については、原則として以下のとおりで適宜図に示した。 陥し穴 1/40
10. 第1章第3節の遺跡分布は以下の文献を参考に作成した。

八千代市教育委員会 1983年 「八千代の遺跡 -千葉県八千代市埋蔵文化財所在地調査報告-」
財千葉県文化財センター 1997年 「千葉県埋蔵文化財分布地図(1) -東葛飾・印旛地区(改訂版)-」
11. 第1章第3節を中心とした「台」「谷」「支台」「支谷」は、「殿内遺跡b地点」の報告書で正式に命名された名称に従う。
- 森 竜哉他 2009年 「千葉県八千代市 殿内遺跡b地点」 八千代市教育委員会
12. 諸般の事情により調査時に標高を算出できなかったため、水系レベルは任意の高さによる。

目　　次

凡　　例

目　　次

第1章 調査経過及び概要.....	1～4
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の方法と経過.....	1
第3節 周辺の地理的・歴史的環境.....	1
第4節 池の台遺跡概要.....	4
第2章 検出された遺構.....	4
第1節 O I P.....	4
第3章 成果と課題.....	5
報告書抄録	

挿図目次

第1図 周辺の遺跡.....	2
第2図 池の台遺跡調査地点図.....	4
第3図 O I P実測図.....	5
第4図 池の台遺跡a地点第1号土坑.....	6

表目次

表1 池の台遺跡調査一覧.....	2
-------------------	---

図版目次

写真図版



第1章 調査経過および概要

第1節 調査にいたる経緯

平成20年6月30日、株式会社国際総合設計代表取締役舛田正人氏から宅地造成に伴い、八千代市萱田字池ノ台2238番2ほかの土地について、「埋蔵文化財の取扱いについて」の確認文書が八千代市教育委員会（以下、「市教委」と略）に提出された。対象地は市遺跡No.240池の台遺跡の範囲内であり、市教委は、遺構が検出される可能性が高いと判断し全城「遺跡有り」の回答を行い、確認調査を実施した。調査の結果、縄文時代の陥れ穴1基を検出し、その周囲20mを協議範囲とした。その後、市教委と事業者間で埋蔵文化財の取り扱いの協議が進められ、現状保存は困難との判断に至り、記録保存の措置として、平成20年7月16日から発掘調査が開始された。調査は、八千代市の平成20年度民間開発等発掘調査事業として、八千代市が直営調査として実施することになった。

第2節 調査の方法と経過

調査は、確認調査で遺構を検出した部分、20m²を対象として行った。基本層序は、上から1層（耕作土、20~60cm）、2層（ソフトローム）となっている。表土除去から、遺構確認、遺構掘り下げまで人力で行った。遺構はソフトローム上面で確認した。0.1Pの土層断面図・エレベーション図は手実測、平面図は光波測定器を用いた。記録写真は、35mm・プローニー判を使用してモノクロ・カラー・リバーサルフィルムで撮影した。調査経過は、平成21年7月16日機材搬入・環境整備等、調査開始。23日遺構検出作業、遺構調査開始。31日遺構調査終了。8月5日埋め戻し終了。6日機材撤収、調査終了。

第3節 周辺の地理的・歴史的環境（第1図）

八千代市は、下総台地西部に位置し、市域は20~30mの標高である。市域の台地の形状は、南西部で高く、東から北に向かって標高を低くし、河川の流路も同様の方向で流れる。市域は、新川を核とした河川の開析により、大きく六つの台地に分かれる。台地はおおむね下総上位面（標高25~30m）、下総下位面（標高20~25m）、千葉段丘面（標高11~15m）の三枚の段丘面に分かれ標高5m以下は沖積地となり、下総下位面に多くの遺跡は分布している。池の台遺跡は、標高約23~24m前後であり下総下位面に占地し、大和田新田台に位置する。細かく見ると白幡前支台が池ノ谷津に東面する範囲に広がり、谷津からの比高差は8m程度である。以下の文中では、谷津・支台を中心として池の台遺跡の周辺を概観する。各遺跡の典拠は紙面の都合から割愛する。

旧石器時代 萱田支台を中心とした萱田遺跡群に生活の足跡をみることができる（⑧北海道遺跡、⑩坊山遺跡、⑪井戸向遺跡）。寺谷津を挟んだ白幡前支台（②白幡前遺跡）、須久茂谷津を挟んだ麦丸支台南部の遺跡でもブロックを確認できる（⑫権現後遺跡、⑬ヲサル山遺跡）。須久茂谷津中程では向山支台（⑮向山遺跡）において、同谷津奥部、高津川との分水嶺を占める一本松前小支台（㉖一本松前遺跡）、川崎山支台（㉗川崎山遺跡）でも遺物集中地点が検出された。新川に近い萱田支台・白幡前支台の台地縁辺部が核となり、周囲に拡散する傾向が捉えられる。

縄文時代 大和田新田台を構成する支台全面において早期~後期にかけて遺構・遺物が検出されている。早期の遺構は、麦丸支台で炉穴を確認できる（㉙麦丸遺跡、㉚ヲサル山遺跡）。前期は一本松前小支台で土坑群が検出されている（㉖一本松前遺跡）。中期は、麦丸支台（㉛ヲサル山遺跡、㉜ヲサル山南遺跡、㉝長兵衛野南遺跡）と川崎山支台（㉘川崎山遺跡）で住居跡が調査されている。津金谷津、須久茂谷津、池ノ谷津のやや奥まった地点で遺構が検出され、遺物の散布も麦丸支台にのる遺跡では確認でき、一部萱田支台でも見受けられる（㉚坊山遺跡）。後期は㉛ヲサル山遺跡で住居跡が検出され、ヲサル山遺



第1図 周辺の遺跡 (1/20,000)

表1 池の台遺跡調査一覧

地点名	遺跡概要	遺物概要	文献
a	縄文時代陥穴4基、平安時代堅穴住居跡6軒・河町址状遺構1基、時期不明土坑12基、同掘立柱建築跡1棟、時期不明溝状遺構1条 (本調査)	旧石器石核、縄文中期河内台(河内台)・河内台、奈良・平安時代土師器・須恵器(墨書き土器等を含む)	池の台遺跡発掘調査報告 八千代市教育委員会 昭和55年
b	奈良・平安時代堅穴住居跡1軒 (本調査・未報告)	—	—
c	平安時代堅穴住居跡2軒、近世溝状遺構2条 (本調査)	縄文早期(条痕文)、奈良・平安時代土師器・須恵器(墨書き土器等を含む)	池の台遺跡 八千代市教育委員会 昭和61年
d	縄文時代土坑1基、平安時代堅穴住居跡2軒 (本調査・未報告)	—	—
e	時期不明土坑2基、同溝状遺構1条 (確認・本調査)	遺物無し	市内遺跡発掘調査報告書 池の台遺跡・地点 八千代市教育委員会 平成17年
f	検出遺構なし (確認調査)	時期不明土師器	市内遺跡発掘調査報告書 池の台遺跡・地点 八千代市教育委員会 平成17年
g	縄文時代陥穴1基 (確認・本調査)	遺物無し	本報告書

跡周辺の各遺跡で土器が出土している。また、高津川に面する一本松前小支台でも土器が散見できる（㉙一本松前東遺跡、㉚一本松前遺跡）。陷し穴は川崎山支台において、「狩り場」空間のような濃密さで発見されている（㉛川崎山遺跡、㉜北裏畠遺跡）。

弥生時代 集落の再編成が行われ後期から集落が出現する。須久茂谷津、寺谷津、池ノ谷津、中島支谷の開口部に位置する地点で集落が形成された（㉖菅地ノ台遺跡、㉗権現後遺跡、㉘ヲサル山遺跡、㉙井戸向遺跡、㉚白幡前遺跡、㉛川崎山遺跡、㉜上ノ山遺跡）。萱田遺跡群では、内房地域の影響を受けた土器の出土が指摘され、八千代市北部の同時期集落とは異なる影響の下、集落が成立したと考えられる。

古墳時代 弥生時代後期から前期に継続する集落が見られる（㉖菅地ノ台遺跡、㉗権現後遺跡、㉘ヲサル山遺跡、㉙北海道遺跡、㉚井戸向遺跡、㉛白幡前遺跡、㉜川崎山遺跡、㉝小板橋遺跡）。前期では、集落内に階級社会を現した方形周溝墓を有する集落（菅地ノ台遺跡、権現後遺跡、ヲサル山遺跡、井戸向遺跡）や、中期で石製模造品の工房（権現後遺跡、北海道遺跡、川崎山遺跡、小板橋遺跡）が存在する。ランドマークとして上ノ山小支台先端に㉞上ノ山古墳（後期か）が築かれた。

奈良・平安時代 須久茂谷津、寺谷津、池ノ谷津を生産の基盤として萱田遺跡群が開発される。また、印旛沼と東京湾の結節点として形成されたエリアでもある。村落形成の始めから、拠点型集落・散在型集落の位置づけなされた上で、集落構成が決定された可能性が高い（註）。それに伴い遺跡の占地、集落内の建物群（遺構）に対しても規制が働いている。白幡前遺跡は中核の遺跡であり、土器焼成遺構が検出された権現後遺跡は、手工業生産を行った外縁部に当たる遺跡に相当し、散在した堅穴住居跡6軒を検出した川崎山遺跡は、空閑地（畑作等に利用か）であった。

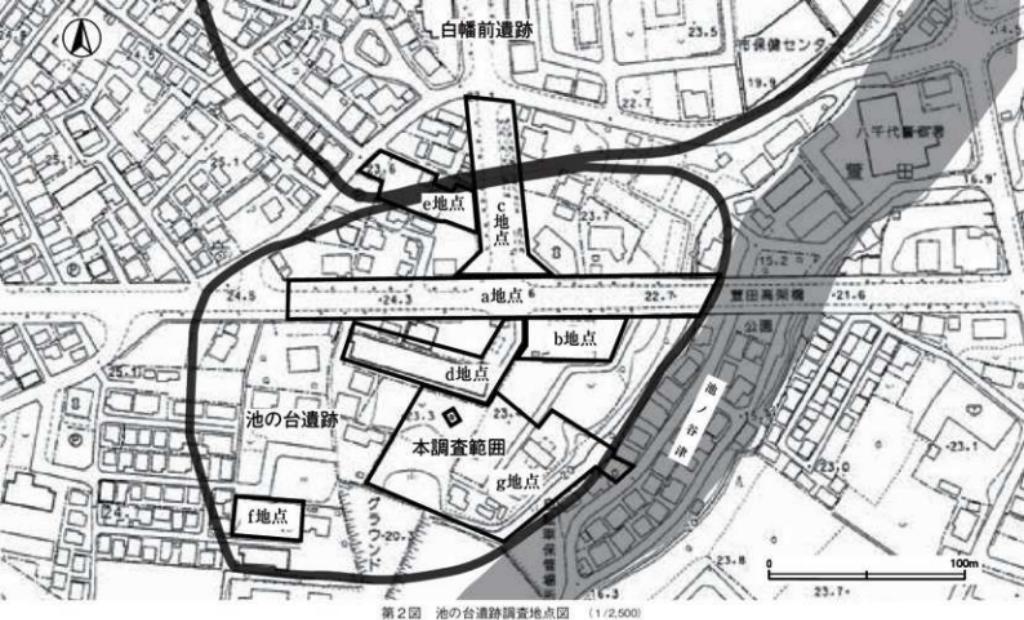
（註）田形孝一 2009「武射郡・山辺郡の古代村落と出土文字資料」「古代房総の地域社会をさぐる（1）」シンポジウム
資料房総古代学研究会

中世 寺谷津に面する㉙井戸向遺跡は、集落跡の一部分、墓跡が調査された。検出された遺構は、土坑墓・地下式坑・方形堅穴状遺構・井戸・溝等である。遺構は調査区北東部に集中する。溝は土地を区画し、24基の地下式坑群と土坑墓群は、それぞれ分布域をことにし半円状に斜面を占地している。12世紀後半から16世紀代にかけての遺物が出土し、貿易陶磁・常滑製品・瀬戸美濃製品・在地系土器が確認され、15世紀代の東海系羽釜が出土した点は注目できる。また660枚の錢貨が出土した土坑は、市域でも希少な例である（註）。㉚萱田梵天（上人）塚からは、武藏型板碑断片2点と常滑製品の甕（15世紀後半～16世紀代）が確認できる。断碑1点は、阿弥陀を種子として蓮座花瓶が刻まれ、正中二（1325）年の記年銘が脇にある。後世、甕と板碑は、近辺にあったものが塚に動かされた可能性がある。

（註）道上 文2008「第三編第七章第六節 発掘された村 p389～p400」「八千代の歴史 通史編 上」八千代市史編纂委員会

近世 近世の遺跡の展開を考える上で、下総道（のちには佐倉道、成田道）の整備と大和田宿の成立が契機となる。大和田宿の近辺で宿に伴うと考えられる㉛北浦畠遺跡では遺構と遺物が、㉝小板橋遺跡では遺物が検出されている。成田街道から分岐し萱田の集落を経て飯綱権現に北上する「萱田道（権現道）」沿いには（註）、庚申塔などの石造物が点在する。㉗権現後遺跡に含まれる飯綱権現の本殿の西側（現八千代市文化伝承館）の地点から、近世の溝が検出され19世紀代の瀬戸美濃・肥前・堺・信楽・志戸呂・源法寺の諸窯の生活雑器が出土した。㉚萱田梵天（上人）塚は、塚本体の築造年代は不明だが、出羽三山碑と廻国供養塔が存在する。廻国供養塔は大日如来座像基部に銘文が彫られて2基あり、寛延4（1751）年・明和2（1765）年の年号を確認できる。寛延4（1751）年の廻国供養塔には「施主 萱田村中」の文字が刻まれ18世紀代の六十六部廻国供養信仰の一端を示している。

（註）常松成人 2009「千葉県八千代市 白幡前遺跡c 地点」八千代市教育委員会



第2図 池の台遺跡調査地点図 (1/2,500)



調査風景

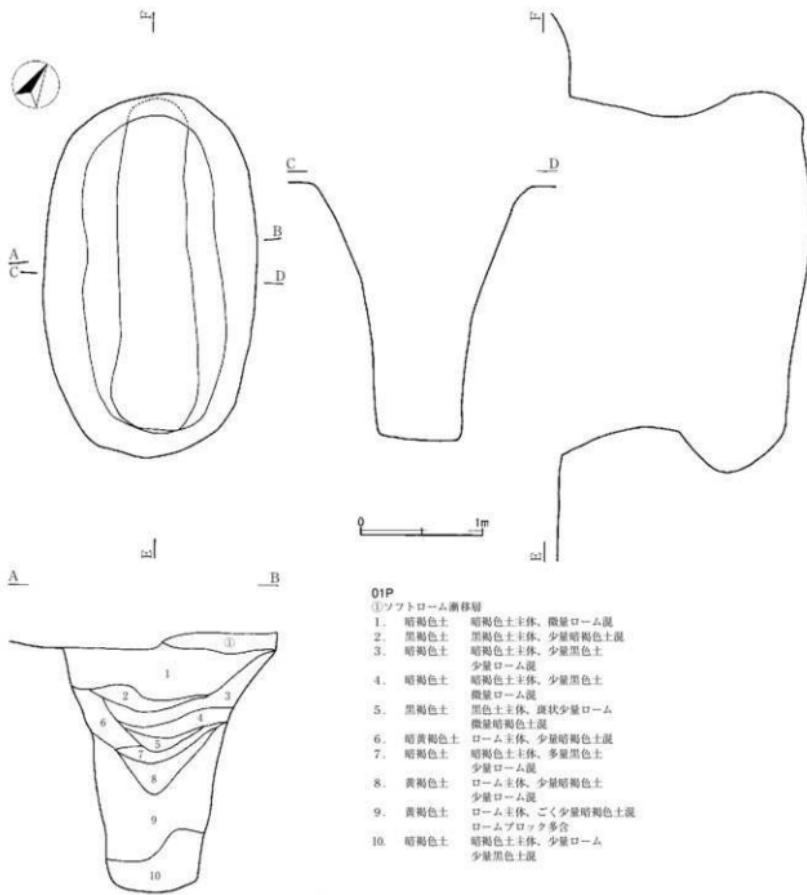
第4節 池の台遺跡の概要 (第1表、第2図)

本遺跡は、a～f地点の6次にわたり調査を実施している。おもに台地縁辺部において、縄文時代陥し穴と奈良・平安時代堅穴住居跡が分布する。g地点の確認調査では、池ノ谷津に面する調査範囲東側で、埋め立ての土層が観察できるトレンチを確認していることから埋没谷が存在する。g地点の標高は約23mを測る。

第2章 検出された遺構 (第3図、写真図版)

1. O1P

重複のない陥し穴である。長軸方向は、北西～南東。平面形は、上部は楕円形、底部は長楕円形。規模は長軸3.0m、短軸1.73m、深さ2.0mである。壁は垂直、中段付近より上はゆるやかに立ち上がる。底面はやや凹凸を有する。底部付近では長軸方向にオーバーハングする。覆土は10層に分層できた。主体は暗褐色土。10層は自然堆積、9層は人為的堆積。それ以降は自然堆積。遺物は出土しなかった。

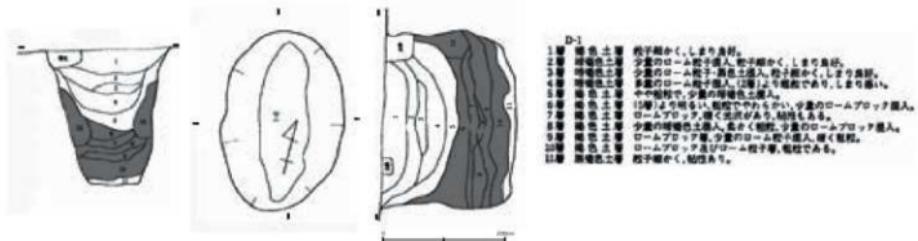


第3図 01P実測図 (1/40)

第3章 成果と課題

標高およそ23mの台地縁辺部において陥し穴1基を検出した。谷津に対して長軸方向が直行する方向に配されている。池の台遺跡の陥し穴は、a地点の成果とあわせて5基が検出された。01Pは、a地点東側で検出された第1号土坑と平面形が似ている。第1号土坑は、覆土11層で自然堆積、6~10層でロームブロックの人为的堆積が観察できる。おそらく同時期の所産であろう。川崎山遺跡、北浦畠遺跡、池の台遺跡では、最下層自然堆積、最下層直上にロームブロックの埋め戻しが観察できる陥し穴が確認できる。以上を踏まえると、陥し穴の利用に一定の法則が働いていたと考えられよう。

奈良・平安時代の遺構は確認されなかった。g地点より北の各調査範囲では検出されていた遺構も、g, f地点と池の台遺跡中央より南側では存在しない。白幡前遺跡からみた南の外縁部にg地点が位置していることを示している。



第4図 池の台遺跡a地点第1号土坑 (1/80)

写真図版



01P 完掘状況 南から



01P セクション

報 告 書 抄 錄

ふりがな	ちばけんやちよし いけのだいいせき じーちてん はぐくつちょうさほうこくしょ							
書 名	千葉県八千代市 池の台道路g地点 発掘調査報告書							
編集者名	伊藤弘一、宮澤久史							
編集期間	八千代市教育委員会							
所 在 地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 TEL 047 (483) 1151							
発行年月日	西暦2010年（平成22年）3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
池の台道路g地点	八千代市萱田字池ノ台 2238-6ほか	12221	240	35度 43分 25秒	140度 6分 18秒	20090716 ～ 20090806	20m ²	宅地造成
所収遺跡	種別	主な時代	主 な 道 構		主 な 遺 物		特記事項	
池の台道路g地点	包蔵地	縦文時代	陥し穴 1基		—		—	
要 約	<p>池の台道路g地点本調査の発掘調査報告書で、民間の宅地造成に伴う民間開発等発掘調査事業として八千代市が直営調査として実施した。</p> <p>池の台遺跡は、八千代市のほぼ中央、萱田地区に所在し、市域中央を流れる新川の西岸に立地する。南北を新川からさらに入り込む小支谷に区切られている舌状台地に展開する遺跡でg地点はその舌状台地南側邊部から中央に位置する。過去の周辺地点では、主に、縦文時代の陥穴、奈良・平安時代の堅穴住居跡など調査例がある。</p> <p>今回、調査された遺構は、縦文時代の陥し穴1基で、遺物は検出されなかった。</p> <p>縦文時代の陥し穴の検出と、遺物が希少であることは、これまでの調査例を追認する形となった。</p>							

千葉県八千代市
池の台遺跡 g 地点発掘調査報告書
2010（平成22年）

発行日 2010年3月30日
編集・発行 八千代市教育委員会
〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2
TEL 047(481)0304
印 刷 金子印刷企画